

農業生産の進展

1. 耕地の拡大 [図表P.179①]

[17世紀初頭] 約 1 160 万町歩 → [18世紀初頭] 約 2 300 万町歩

* 治水技術・用水路開削技術の発達により、平野部や海岸部の耕地化が進む。

→ 芦ノ湖を水源とする箱根用水や利根川を分水した見沼代用水が著名。

2. 農具の発達 [図表P.179②]

【土おこし・深耕】風呂鍬 → 3 備中鍬

【脱穀】こき箸 → 4 千歯扱 (通称「後家倒し」=未亡人の仕事を奪ってしまうことから)

【選別具】金網上を流して選別する 5 千石籠 や手回しで起こす風で吹き分ける 6 唐箕

【揚水機】竜骨車 [図表P.140①] → 7 踏車

3. 購入肥料 (= 8 金肥) の使用開始 [図表P.179③]

◇ 商品作物栽培の盛んな地域で用いる 9 干鰯 ・ 10 油粕 ・ 粕など [図表P.21]

菜種や綿実、荳胡麻から油を絞った粕

◇ 「四木三草」…幕府・諸藩が重視した商品作物の総称 [図表P.17～18]。

「四木」= 11 楮 ・ 桑 ・ 漆 ・ 茶 ※会津の漆、山城の茶が有名 [図表P.17]

「三草」= 藍 ・ 紅花 ・ 麻 ※12 阿波 の藍、13 出羽村山 の紅花が有名 [図表P.18]

4. 農書(農業技術解説書)の普及 [P.203；図表P.179④]

〈17世紀半ば〉『清良記』(最古の農書)

〈17世紀末〉『農業全書』(14 宮崎安貞)

〈19世紀〉『農具便利論』『広益国産考』(15 大蔵永常)

漁業

☆網漁(=上方漁法)の普及

→上総・九十九里浜の地曳網(地引網)による16 鰯 漁が有名。→金肥に加工

【釣漁】土佐の鰹、瀬戸内の鯛 【捕鯨】紀伊、土佐、肥前、長門

☆17 俵物 …俵につめた海産物。18 いりこ ・ 19 ほしあわび ・ 20 ふかひれ の

3品をいう。21 中国(清) に対する重要な輸出品。[図表P.21]

塩業

☆中世の22 揚浜 塩田から23 入浜 塩田へ [図表P.23&図表180図]

※ パソコンで「確認」プリントを表示すると、一部の空欄赤字がきちんと表現されないという事象がありました。その場合、それを印刷するか、またはスマホで表示すると正しく表示されるようです。

※ 舟入高校専用ホームページで日本史のプリント番号がずれている場合が発生していますが、これはさまざまな先生方の連携によりプリントをアップする際に、ちょっとした変換ミスが起こっているようです。生徒の皆さんは「ずれてるなー」と思いながらも、大きな支障がなければ自分でうまく対処してください。

◇ 江戸前期の急激な耕地拡大は、沖積平野(河川下流域)などの平坦部が開拓されたことと、水利の便が悪かった場所に用水路を通すことで水田化が可能となったことなどにより実現しました。

平坦な場所では田に水を引き込み、排水する用水路の傾斜をつけるための正確な測量技術が必要になります(棚田のような傾斜のあるところに水を引き入れて排水するのは難しくありません。平坦なところではきちんと計算しないとどこかで流れずにたまったり、逆流する場所ができてしまいます。)

皆さんのプリントでは、裏面に箱根用水(深良用水)の断面図を載せました。箱根の山の下を掘り通す用水路で、その長さは1,280m。当然重機のような機械もなく、相模国(神奈川県)と駿河国(静岡県)の両方からノミなどを使って掘り始め、4年間掘り続けた結果、中央部で上下1mの段差(誤差という説と確実に流すための意図的な段差という説あり)で開通に成功。干ばつ被害に苦しんでいた駿河国(静岡県)側に水を流すことに成功しました。ちなみに、この用水開発にあたり莫大な金額を投資した江戸の商人は、投資した資金の回収が思ったほど進まず、幕府に上納される資金を横領して処刑されたともいわれていますが、こうした大事業にもかかわらず、史料が多くは残されていないようで詳細はわかりません。

◇ 「四木三草」の一つに挙げられている「楮」は何の原料でしょうか。また、桑は何の餌として植えられていたのでしょうか。即答できない人は図表P.17で確認しましょう。ちなみに私が育った地域は歴史的に絹の生産が盛んだったので桑があちこちに植えられていて、中学生のときにはこの桑の葉をちぎって餌にして、○を育てたことがあります。

◇ 図表で確かめた人はわかっていると思いますが、「俵物」として出荷される「いりこ、ほしあわび、ふかのひれ」の「いりこ」は、味噌汁のだしを取るあの小魚のことではありません。まだよくわかっていない人は図表P.21で必ず確認しましょう。